

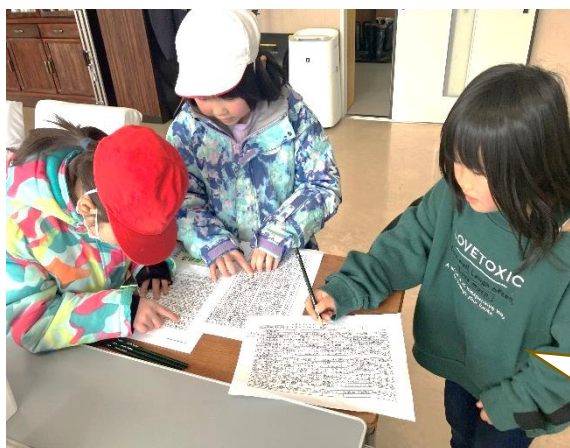


みなみの風

坂下南小学校
学校だより
NO. 98
R7. 2. 27
(文責:校長 菅家 篤)

ドリーム&チャレンジ! ~あいさつ・はっぴょう・なかまとじぶん~

暗唱チャレンジの南の風が吹いています



6年生が卒業課題「日本国憲法前文」の暗唱に取り組んでいますが、下級生の3年生、4年生、5年生の中からも積極的にチャレンジし、合格者が誕生しています。6年生が頑張っ取組む姿が下級生にも伝わり、「自分も挑戦してみたい!」というムードが学校全体に広がりつつあるのを感じています。

今、南小学校には、子ども達の暗唱チャレンジを後押しする南の風が吹いています!

日本国憲法前文の読めない漢字にふり仮名をつける
2年生の子ども達。(26日昼休みの校長室で)

4年生2名が合格!「日本国憲法前文」暗唱

＝課題を受け取り短期間で合格＝

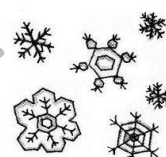


26日に4年生2名が「日本国憲法前文」の暗唱に挑戦し、見事合格しました。(左の写真)

難しい課題にチャレンジしようと思う気持ちが本当に素晴らしいです。そして、取り組み方にも素晴らしいものがありました。先週、課題を渡したのですが、**およそ1週間で暗唱することができたのです。課題を受け取って、すぐに取り組んだからこそ短期間で合格することができたのだと思います。**

本当によく頑張りました!

雪の結晶は、天から送られた手紙



「雪の結晶は、天から送られてきた手紙である」

こう言ったのは、1938年、北海道大学の中谷宇吉郎(物理学者)博士です。博士は、天から降ってくる雪を観察して、針状、角柱状、板状、平板角柱組合せ雲粒付、無定形、交差角板などの結晶の種類に分類しました。結晶は、上層の気温や湿度によって違います。ですから雪の結晶の形や模様は、上層の気象条件を示す暗号だと言うのです。そこで博士は、暗号を解くために低温実験室をつくり、世界で初めて人工雪をつくることに成功しました。

今年の大雪に、うんざりしている人が多いと思います。そんな厳しい季節の中でも、空から舞い降りてくる雪の一粒一粒をそっと見つめて、自然の不思議さや美しさに思いを寄せてみるのもいいかもしれません。

ちなみに私は冬の季節が好きです。それは、寒い分、色々な温もりを感じることができるからです。

